

聖書の言葉
平和を実現する人たちは
幸いである。
その人たちは
神の子と呼ばれる。
マタイによる福音書5章9節

シャロームタイムズ

2008年8月10日(日)発行

宗教法人

野毛山キリストの教会

〒220-0042 横浜市西区老松町30番地

平和聖日

でも八月第一日曜日は、平和について考え、過去の戦争の過ちを忘れないよう、風化されないよう、と覚えてずっと礼拝をささげて参りました。今年も去る八月三日(第一主日)平和聖日として礼拝をささげました。奈良昌人牧師より、「キリストは私たちの平和です」というメッセージをいただき、午後からの「平和を語る会」では、戦争体験の話とサマーバイブルスクールの報告を通して、平和・いのちについて考えるとても大切な時間を過ごしました。

伝えよう 戦争の恐ろしさ

金児栄治牧師と山中昭五氏、飛山二平氏、関島信彦氏、残念ながらこの日は出席することができなかつた島津嘉夫氏。五人の皆さんは中学時代からの学友です。毎週木曜日の「聖書に親しむ会」特別主日公同礼拝にはいつも来会され、同窓会のように会われていていることは実際にうらやましいことです。現代たつたら、たくさん遊んでいるような学生時代に戦争という怖い体験をしながら生きて来られた皆さんだからこそ、より一層紳が深いのだ感じました。

今回はその方々から戦争当時のお話をうかがいました。昭和十八年、中学に入学。戦争が激しくなると、皆さんは学徒動員として、保土ヶ谷化学で働かれ、その時に何度も空襲警報にあわれました。そのとき、何度も空敵にわかつてしまふので、灯りが外にもれると敵にわからないようにと暗い生活をしていました。B-29といふ飛行機は爆弾をたくさん積んでたくさんになりました。横浜も五月二十九日には空襲にあり、ほとんどが焼け野原になりました。その時はみんなで防空壕に隠れていました。低空飛行で今にも襲つてしまふなヒコーキ、みんなで防空壕に逃げたときの恐怖の思い、怖い経験をたくさんしました。戦後六十三年、戦争を知らない世代が増えています。今、この時に、戦争の恐ろしさを伝え知つていきましょう。



2008年の夏も、平和への思いを熱くし、いのちの貴さを知りましょう。

年間の自殺者3万人を超える日本の現実を憂い、さらに6月末の秋葉原での無差別殺傷事件はじめ身勝手な犯罪に嘆く者として、いのちの大切さをことさらに叫んでいきたい。

なぜいのちが大切なことを考える時、そのいのちが愛されているいのちであることを知ることが前提となります。この世には、愛されていないいのちなどないのですから…。自分のいのちは愛されている、つまり自分は何があつても、まず「神さまに愛されている」ということを伝えたいと思います。自分が大切にされ、愛されているという経験が「隣人を愛する」ことを可能にするのであります。自分でいのちの大切にすることへとつながるのです。子どもたちだけでなく、おとなも、誰もが愛されています。自分の中に嫌いなところがある、しかし、それも間違なく自分なんだという事実がいっそう自分を受け入れがたくしています。しかし、どんなに自分がそう思っても、あるいは人がどのように自分を見ようとも、自分を愛してくださる方がいらっしゃる。「わたしの目にはあなたは価値高く、貴く、わたしはあなたを愛す。」と言ってくださる方がおられることがあります。

♪君は愛されるため生まれた

君は愛されるため生まれた 君の生涯は愛で満ちている
君は愛されるため生まれた 君の生涯は愛で満ちている
永遠の神の愛は われらの出会いの中に実を結ぶ
君の存在は 私には どれほど大きな 喜びでしょう
君は愛されるため生まれた 今もその愛受けている

広島(ヒロシマ)

1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分。原子爆弾リトルボーイは、第33代アメリカ合衆国大統領ハリー・S・トルーマンの原子爆弾投下の大統領命令を受けたB-29(エノラ・ゲイ)によって投下されました。

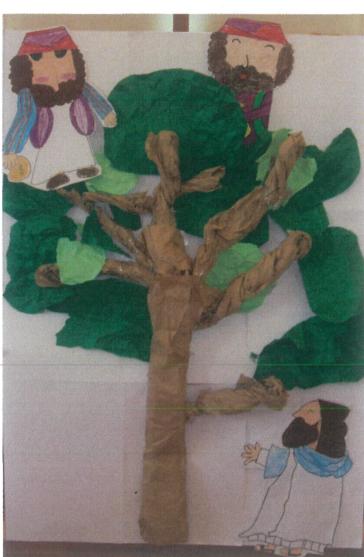
この一年に亡くなった方 5302人
計 258310人

長崎(ナガサキ)

広島の3日後の1945年8月9日午前11時2分、B-29(ボックスカー)が長崎市に原子爆弾ファットマンが投下しました。

この一年に亡くなった方 3058人
計 145984人

八月や 六日
はちがつや むいか
ここのか じゅうごにち
九日 十五日
くわうじつ



サマーバイブルスクールでは、和子先生から「ザアカイの話」について、わかりやすく丁寧に説いていただき、神さまの愛について考える時間を持つことができました。「ザアカイの話」を通して、神さまが私たち一人ひとりを愛し招いてくださっていること、また、神さまから離れて道に迷っている者こそ、神さまは、よろこんで受け入れ、深く愛してくださるということを改めて学びました。

また、分級の最後に、金児先生が、平和を守り維持するための「憲法第9条」や戦争に関する資料を示しながら、平和についてお話しくださいました。

広島、長崎の原爆で、どれほど多くの方々が犠牲になられたかということ、そして、今もなお、原爆症で毎年何千人という多くの人々が亡くなられており、園長先生は、毎年その数を手帳に記録し、心に刻んでいるというお話を伺いました。園長先生のお話では、近年減少し続けていた原爆ドームを訪れる人の数が、このところまた、増えてきていることです。私たちも、戦争の悲惨さから目をそむけることなく、子どもたちと一緒に考えていかなくてはならないと思いました。戦争でお母さまを亡くされたという園長先生から戦争の体験を伺い、戦争という大きな問題はもちろのこと、私たちが日々の生活中で、神さまから愛されている一人ひとりの命の大切さ、心の平和、といつたことをしっかりと考えて生きていかなくてはならないのだと改めて感じました。

(報告 根岸ひろみ)

アンデレグループ

おとな・保護者



日本国憲法 第2章 戦争の放棄 第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、國權の發動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、國際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸空海軍その他の戦力は、これを保持しない。國の交戦権は、これを認めない。



シャロームタイムズ

2008年8月10日（日）発行

宗教法人

野毛山キリストの教会

〒220-0042 横浜市西区老松町30番地

絵本 しらないひと

スウェーデン出身 シエル・リンゲが描いた絵本。平和で幸せに暮らしていた国に、ある日突然「しらないひと」がやってきた。たちまち國中は大騒ぎ…ありとあらゆる手段を使って「しらないひと」に接触し始めます。未知なるモノに対する好奇心が、だんだんエスカレートする度に不安感や警戒心を生み、いつの間にか敵意に変化してゆく。…これは悲しい、世界のどこかで今も現実に起こっている戦争や紛争のすべてに共通するものかもしれません。国の人々は、「しらない人」を自分たちの國から出て行つてもらうためにいろいろ試みますが、全部ダメ。ついに最終兵器を持ち出したとき、「しらないひと」が泣き始めたのです！…その時初めて人々は、大切なことに気がつきました。

王様はやっと「しらない人」（巨人）の目線までいくことが出来ました。そして王様は言いました。「ようこそ、我が國へ」

「世界中の人たちがこの絵本を読んだなら戦争は決して起ららないでしょう」…

同じ目線になったことで見えて來たこと…
この絵本を通して、みんなで話し合いました。



サムエルケルーフ

小学校一年生

良い羊飼いのたとえを通して、神さまが私たち一人ひとりをいつも愛している時も守っていてくださることを学びました。それは、私たち一人ひとりが“かけがえのない大切な存在” = “神さまの子ども”だからです。みんな同じ神さまの子どもとして、互いに愛し合い、認め合うこと一番の大切さを感じて欲しいと思い、子どもたちにとつてつて一番身近な存在である「友だち」について考えるとつても友だちになれるのを実際に体験するため、教会で支援と交流を行つているパングラディッシュのアイリーンちゃんに手紙を書きました。字が書けない子が多く、ほとんどの子が絵を描いていましたが、子どもたちは、アイリーンちゃんの写真や今までに送られて来た手紙をうれしそうに見ながら、「アイリーンちゃん喜んでくれるかな」「またお返事くれるかな」と、一生懸命考えて花火や虹、地球やアイリーンちゃんの顔を描きました。最後に、アイリーンちゃんのために子どもたちがお祈りをしてくれました。「アイリーンちゃんが元気でいられますように」「神さまが守つてくれますように」「アイリーンちゃんのお家に水道ができるように…自分以外の人のために祈りする心を持つことの大切さを、幼い子どもたちから教えられたような気がします。

“神さまに愛されているわたし”を感じ、有り余る程与えられているたくさんの愛を、少しでも分け与えられるよう自分以外の人のために祈る気持ちを持って過ごしていきたいと思います。

（報告 安藤真理子）

ひつじグルーフ

幼稚科

オリーブグルーフ

小学校一・三年生



私たちは、子どももおとなも神さまに守られ、そしてたくさんの人々に祝福されて生まれてきました。そのことを知つていてほしいという願いを込め、「神さまに愛されているわたし・神さまに愛されている友だち」について考える分級の時を持ちました。

まず、自分について考えました。自分の好きなところや好きな事を考えたり、自分の名前の由来や生まれたときのエピソード、生まれたときの身長や体重を調べ発表し合いました。

澤野 頌くんの名前の由来

頌という字は、褒め称えるといふ意味があります。神さまを褒め称える人になってほしいと思って、お父さんとお母さんがつけてくれました。

根岸 咲和さんの名前の由来

咲和という名前は、花が咲くように美しく、かわいく、そして人の心を和ますことのできるような、優しく穏やかな人になってほしいという願いが込められています。また、「咲」という字は「笑」という字の原字でもあるので、いつもニコニコ笑っていることができますようにという意味があります。



私たちみんながザアカイ

富永 恭介 人はひとりでは生きていいくことができません。なので、生きていくためには友だちが必要です。ザアカイみたいな悪くてずるい人も人間は人間です。彼も友だちが必要でした。しかし、嫌われ者だったため友だちと呼べるように人はいかないかと思います。イエスさまは、その状態を見抜き、少しの時間でも彼のそばにいて友だちになってあげようとしていました。そして、ザアカイはその行為に感動し、自分の罪をつぐないました。僕も罪人だろうがなんだらうが孤独な人の友だちになつてその人を正しい方向へ導びけるような人になりたいと思いました。

廣瀬 純子 ザアカイはともだちがない。さえてくれる人がいません。そこであった人はイエスさまです。ザアカイはイエスさまにあえて、ザアカイの心は、やさしくなったと思います。

普段、何気なく使っている名前ですが、お父さんやお母さんが願いを込めてつけてくれた名前だと知り、子どもたちはとても嬉しかったようです。

また、友だちの名前の由来やエピソードを聞くことで、友だちもまた自分と同じように家族から愛され生まれてきたことを知りました。

友だちについても考えました。
友だちの好きなところは…

一生懸命なところ、仲良くしてくれるところ、優しいところ、一緒に遊ぼうといってくれるところ、面白いところ

友だちがいるところ…

楽しくなる、ほっとする、安心する、頑張れる

友だちにしてもらったら嬉しいこと…

一緒にいてくれること、困ったときに助けてくれること、話を聞いてくれること、一緒に喜んでくれること

友だちのことをたくさん考えました。時にはけんかもあるかもしれません。でも一人ひとり違うのは当たり前。できることも、得意なことも考え方も皆違います。皆がお互いに認め合うことが大切だねと話しました。

最近、家族や罪のない人の命を奪う悲しい事件が相次いでいます。そんな報道を耳にする度、やりきれない気持ちになります。しかし、私たちも思い通りにいかなかったり、嫌なことがあったりしたとき、誰かに当たったりむしゃくしゃすることが少なからずあると思います。そんな時支えてくれるのが、神さまに愛され、大好きな家族や友だちがいるという安心感や自信なのではないかと思います。

（報告 酒井 大志）

根岸 和花 ザアカイは、どんな気持ちで他の人と接していたのだろうと考えた時に、まず、自分が嫌われていたのが嫌で、人にやつあたりのように、みんなに悪いことをしていました。イエスさまが来られるときいた時に、ザアカイはどう思つたか考えてみたら、迷いと不安があつたと思います。イエスさまの近くにいれば友だちができるかなと思つたり、あまりいいことをしてないから、イエスさまにも嫌われてないか心配という気持ちがあつたと思います。考えた結果、ザアカイはイエスさまに会いに行きました。そこでイエスさまにお会いすることができ、ザアカイは、もう一人のザアカイへと変わることができます。イエスさまに会えたことで、こんなに人は変わります。そんなイエスさまの力はすごいものだなあと改めて思いました。

木下 愛 わたしは、ザアカイは、はじめ、金持ちで背が低くていばってたと思っていました。一回、学校で聞いたことがあります。でも、改めて野毛山教会で聞くことができてうれしかつたです。私は、ザアカイがイエスさまと会うことによって変われたと思いました。やっぱり、みんなのようによく苦しんでいるとき、友だちがいると心強いです。

友だちがいてうれしいな。

野本 寛生 ザアカイは心の底では、自分が悪いことを知っていたのかもしれない。だから、自然に身体が神の子のところに行つたのかかもしれない。ザアカイは家族や友だちがいないから、悪くなってしまったのかかもしれない。それは、みんなザアカイをイエスさま、神させた。見捨てず、ザアカイを助けてくれた。イエスさま、神さまはいつも私たちのそばにいてくれるから、私たちが間違つた道を選んでしまったときも、きっと神さまは助けてください。

ザアカイの話

を通じて考えました

ザアカイの気持ちになり、いろいろ話して合いました。

みんなからいろいろ深い意見が出たことに驚きました。

小竹 諒子 ザアカイの気持ちを考えたことをみんなで発表しました。みんなのひとりひとりがう考えが聞けて勉強になったと思います。友だちがいないと、自分たちがう考えが聞けないので、ザアカイはイエスさまがくるまで、みんなにきらわれていてとても心細かったです。イエスさまが来てくれたおかげで、ザアカイはともだちと本当の喜びを味わえたと思います。ともだちがいるってできなことだと改めてわかりました。

ノア・ジュニアグルーフ

小学校四年生
中高生